実践躬行

JISSEN KYU-KOU

突撃！
日本を元気にする
公認会計士へ

じっせんきゅうこう【実践躬行】「理論や信条をそのとおりに自分自身で実際に行うこと。」（大辞林より）

Engage in the Public Interest
社会に貢献する公認会計士

No.006 2018年3月1日発行

発行元：日本公認会計士協会
〒102-8264 東京都千代田区九段南4-4-1
http://www.jicpa.or.jp
編　集：日本公認会計士準会員会 実践躬行チーム

Profile No.1

チャレンジ！

人生100年の時代
自分を信じて、色々な事に
チャレンジして、その仕事を一所懸命
にやってもらいたい。必らずそこから
見えてくるものがある。

宮原敏夫

宮原　敏夫

みやはら　としお

公認会計士　税理士
昭和47年　公認会計士試験合格
昭和48年　中央大学商学部卒業　監査法人朝日会計社
（現有限責任あずさ監査法人）　入社
昭和51年　公認会計士登録
昭和52年　税理士登録
昭和55年　宮原公認会計士事務所　開業
（～現在に至る）
平成13年　爽監査法人　設立　代表社員に就任
（～現在に至る）
平成18年　日本公認会計士協会埼玉県会　会長
（～平成21年）
平成23年　税理士法人朝日会計社　設立　代表社員に就任
（～現在に至る）
平成28年　日本公認会計士協会埼玉会　相談役
（～現在に至る）
平成28年　公認会計士協同組合　理事長
（～現在に至る）

公認会計士をめざそうと思ったきっかけを教えてください。

埼玉県立深谷商業高校在学中に、公認会計士という職業があることを知りました。学校の先生から「会計を専門に扱う職業には公認会計士や税理士がありますが、簡単に合格できるものではないので、皆さんはまず簿記の勉強を一生懸命しましょう」と教えられたので、当時太平洋セメントの前身だった会社に勤めていた父に公認会計士について尋ねたところ、なにか証明書のようなものを作ってお金をもらう仕事だと教えてもらい、そのときはなんだか楽そうな仕事だなと思いました。そのころは公認会計士に関する情報は世間に多くなくてイメージが湧きにくかったのですが、それから卒業後の進路を考えたときに公認会計士試験を受験するために進学しようと決めました。

当時は受験予備校が無かったため、合格率がトップの中央大学商学部会計学科に入学することが必須でした。折しも安保闘争真っ只中で東大の入試がない年で、大変な難関となりましたが努力が実って中央大学に入学しました。入学後しばらくはマージャンや観劇に熱中していましたが、やがて経理研究所に入るための勉強を始め、入所後は同じ志を持った同期や先輩たちと切磋琢磨し、卒業までに合格することができました。

若手時代に苦労したことはなんでしょうか。

監査法人時代は、同僚、クライアントとも非常に良い関係で、苦労と感じたことはなかったです。良き同僚に恵まれ、諸先輩方には多くの指導をいただき大変勉強になりました。夜は楽しく飲みによく行きました。先輩にごちそうになることもあれば、自分が先輩の立場になったときは後輩を気遣ってよく連れて行ったことも良い思い出です。

クライアントとの関係では、当時はクライアントと昼食を一緒することも時々あり、会計処理に関する質問に答えたり、経営に関する心配事の相談を受けて一緒に考えたりすることで信頼関係が構築できていくのをいきいきと実感できたことは、やりがいを感じる良い経験でした。

同じ時期に仕事の後、情報システムの学校にも通わせてもらって勉強もしていました。機会を与えてくれた監査法人には感謝しています。

独立開業してからは、法人の組織の中で必要な情報がすぐに入手できる環境では無くなったため、全ての事を自分で勉強していかなければなりませんでした。特に、中小企業中心の税務の実務では、何もわかっていない勉強不足を恥じつつも、若さで乗り切ってきたように思います。

独立開業されたころについて教えてください。

世間の眼は公認会計士に税務にも精通していることを期待している、と考えて独立開業しました。プロの職業会計人として常に自己研鑽を怠らず業務に取り組んできたつもりでしたが、監査法人に在籍しているときは税務の専門家に頼ることもでき、大きな組織の中で甘えた考えがあったのではないかと反省するときもありました。一人のプロとしてクライアントの期待に応えるためには税務もわからないと恥ずかしいと思い開業しましたが、ゼロからのスタートでした。当初は顧問先もほとんど無く、生計は監査のパート業務の報酬で賄っていた時期もありました。夜は税務のスクールに通って勉強をしていました。同じように夜、税務の勉強をしていた先生もそのころは多くいらっしゃったように思います。

大切にしてきたのは人間関係です。人脈は情報網であり、自分がわからないことを質問できる相手を持つことは重要でした。各種会合や夜の飲み会に顔を出すように心がけて、知り合った金融機関の方や他士業の先生からお客様を紹介されるようになりました。同業の税理士さんからも顧問先の学校法人の監査を、との引き合いをもらったりするようになったため、爽監査法人を設立してこちらで引き受けるようになりました。お客様との信頼関係と責任感が大切な仕事ですので、飛び込みのお客様に対して二つ返事で引き受けることはなかなか難しい場合もありますから、こうしたご紹介をいただいたお客様が現在の関与先の中心です。

独立開業から40周年を目前に、これまで経営をお続けになってきた秘訣として、日ごろ心掛けてこられたことを教えてください。

やはり、人間関係を一番大切にしてきました。

事務所の社訓を紹介します。

“誠実で謙虚であること”
“プロとしての自覚・意地を”
“社会貢献と豊かな人生を”

誠実で謙虚であれば他人の話をよく聞くことができ、それが自分をどんどん成長させます。相手の話を心で受け止めて、体で行動することが大事です。

それから、プロとして安易な判断はしないこと。クライアントに接するときはどの局面でもＰＤＣＡサイクルを回し続けるよう緊張感を持って臨み、自分の判断と行動が誠実で相手のためになっているかを常に意識していなければなりません。時には一歩引いて冷静に考えることも有効です。「自分はこれだけやっているのに、相手は全然わかってくれない」と思う経験が誰しもあると思いますが、ベストとは自分が決めるものでなく相手が決めるものと考えれば、そのような思考に陥ってしまうことはありません。話し上手にはならなくていいから、一生懸命話すことが大切なのです。このようなことを事務所で毎朝行っている朝会でスタッフに話しています。

人間として出来る事と出来ない事は当然ありますが、人のためにやれる事は可能な限りやってあげたいと思っています。仕事のスタンスも、このような考えを実行しているつもりです。相続は争族の言葉のとおり当事者との間で板挟みになりながらも、最良の着地点を探して夜も眠れなくなるほど悩み抜いたときもあります。その甲斐あってこれまで大きな事故はまったくなく、おかげさまで30数年間お客様が減ったことがないのが、ひとつ自慢できることです。協会の活動も一生懸命取り組んできました。公認会計士のブランドを高めるために協会・地域会を盛り立てることは、公認会計士である自分自身の義務だと考えています。

休日の過ごされ方について教えてください。

30年以上前から10数名の仲間で毎週末テニスを楽しんでいます。体を動かし、汗を流すことは良いリフレッシュになっています。これがあったからこそ体力的にもストレス的にも仕事をこれまで続けて来れたと思えるほどです。以前所属していたテニスサークルが解散になった時に声掛けをして、有志で集まって好きなテニスを楽しんできた訳ですが、当初、名前と電話番号だけ交換しただけで、年齢も職業も住所も知らないままに30年以上の付き合いとなっています。仲間がいると楽しくて続けられます。人付き合いのコツは、世話役を買って出ること。面倒を見る人、気遣いのできる人がいるとなんでもうまく回るものです。ボランティア精神が大事なのですね。この仲間で年に何回か飲み会、カラオケ大会を開催するのも楽しみで、私にとっては全く利害関係無しの大切な友人関係であり、とても大事にしています。

最後に、若手会計士・受験生へのメッセージをお願いします！

チャレンジ！！　人生100年時代！

自分を信じ、色々な事にチャレンジし、そして、その仕事を一所懸命にやってもらいたい。必ず、そこから見えてくるものがあると思います。

私はこの仕事で生涯現役を目指します。年齢を重ねても活躍できる場があることは素晴らしいことです。

日本公認会計士協会
The Japanese Institute of Certified Public Accountants

JIJA 日本公認会計士協会 準会員会
The Japanese Institute of Junior Accountants